

知のエンタテイメント
第3回 実践に役立つ学術フォーラム
「高齢者医療と経済」
開催レポート

開催：2017年4月13日（木）
於：八芳園



知のエンタテイメント

第3回

実践に役立つ学術フォーラム

高齢者医療
と経済

2017年4月13日(木) 13:00~16:00

八芳園 東京都港区白金台1-1-1

次代
創造工房

開催概要

知のエンタテインメント 第3回 実践に役立つ学術フォーラム 「高齢者医療と経済」

日時： 2017年4月13日（木） 13：00～16：00

会場： 八芳園

司会： 湯山 茂徳氏（京都大学経営管理大学特命教授。学術フォーラム実行委員長）

登壇者： 岩尾 聡士氏（高齢社会街づくり研究所（株）代表）

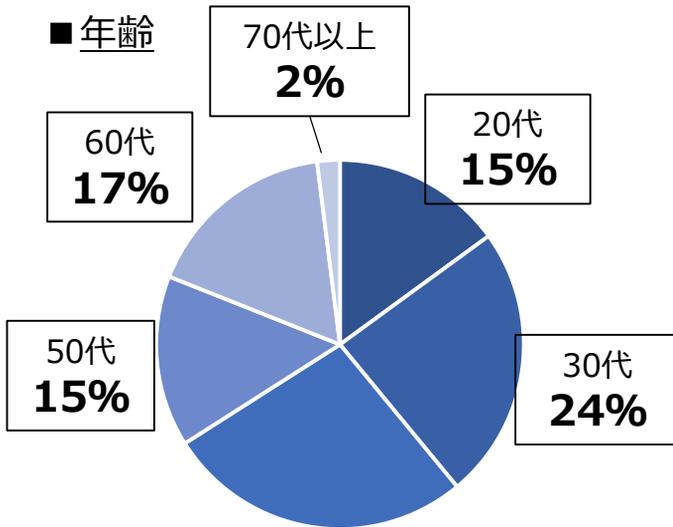
中村 格子氏（横浜市立大学整形外科客員教授/Dr.KAKUKOスポーツクリニック院長）

伊藤 元重氏（東京大学名誉教授/学習院大学国際社会科学部教授）

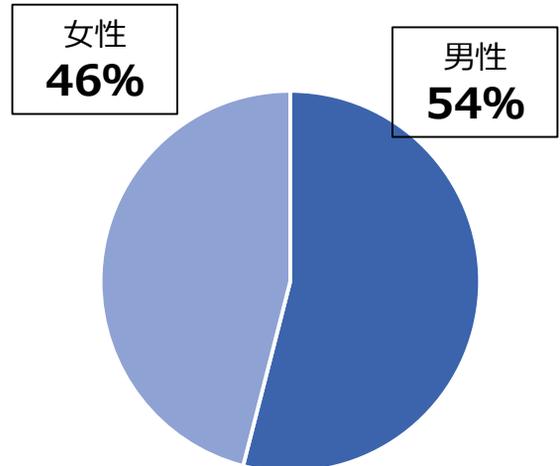
ご来場者数：81名

参加者アンケート

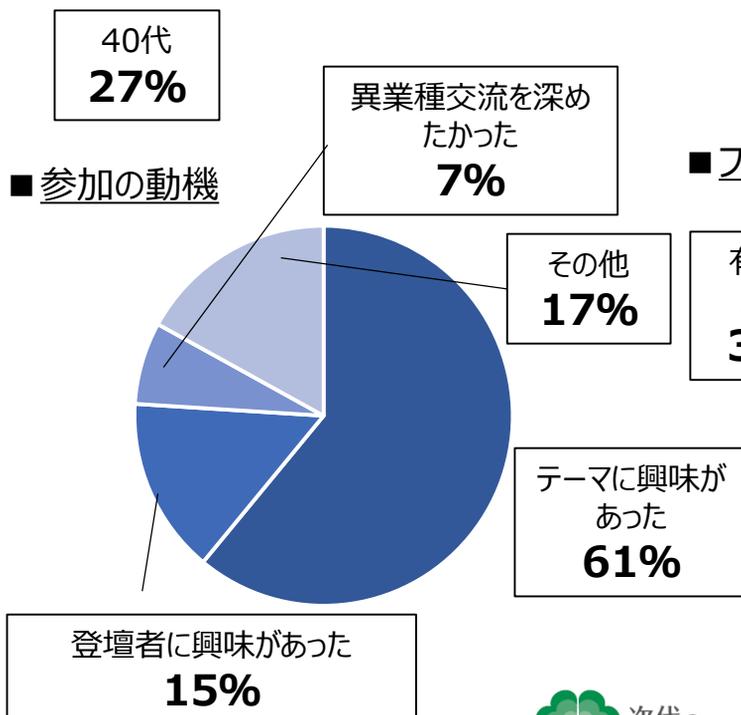
■ 年齢



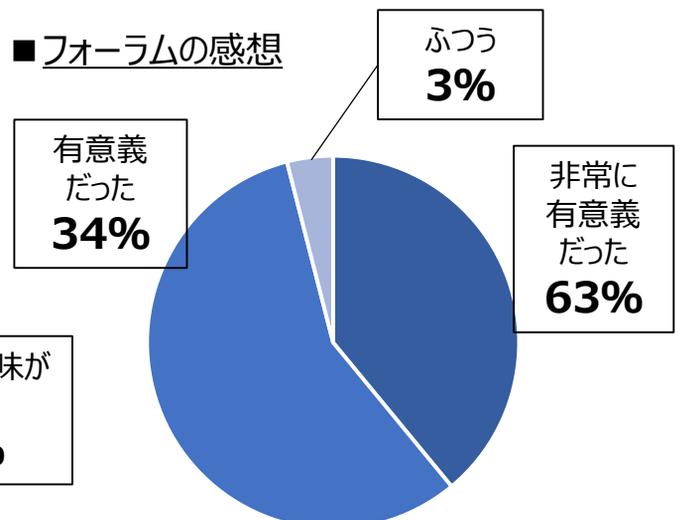
■ 性別



■ 参加の動機



■ フォーラムの感想



フォーラム

■ 湯山 茂徳氏

- ・子どもたち（日本の未来）を取り巻く環境が大きく変化
- ・時代の曲がり角を、どう乗り越えたら良いだろうか。
- ・昨年5月と12月、専門分野の垣根を越え学者たちが集結。横断的かつ総合的な討論会を実施

→現在において医療費の伸び率（3%）がGDPの伸び率（1%）をはるかに上回っている。
今後の医療費の増加による経済への負担が大きいため、その解決策を探っていこうと思います。

■ 岩尾 聡士氏「持続可能なヘルスケアサービス」

- ・現在の日本の危機的状況というのは、後期高齢者が爆発的に増えていること。
世界の中で日本のみが今後の20～30年で後期高齢者が爆発的に増える。
→後期高齢者が増えている社会では、医療と介護は同時に提供しなければならない。
→そのため、医療・介護のあるまちづくりが重要となる。
- ・さらには、ご高齢になると意欲が低下する。それをなくすために、
医療・介護を提供するだけでなく、一つ一つのところに始まりや感動を
つくれるような場を提供する必要がある。
- ・最後まで生活の質にチャレンジする。それを新しい在宅医療や街づくりに仕組みとして
取り入れる必要がある。

■ 中村 格子氏「高齢者の予防医療」

- ・2013年ごろから「健康寿命」が大事であると言われるようになった。
→「ロコモティブシンドローム」という言葉が出始めた。
- ・「ロコモティブシンドローム」とは、運動器が劣化してし、骨粗しょう症や骨折、そして関節症、
あるいは筋肉が少なくなるという「サルコペニア」となり、移動能力が下がって、QOLが低下して、
要介護となってしまうこと。
- ・要支援、要介護になる第1位の要因は、運動器の障害である。
- ・運動器の疾患は、長生きをしながら寝たきりになってしまう。
ここを減らさなければ、医療費は減らないだろうということになった。
→そのため、運動による健康の維持増進をして、予防医療に努めることが重要となる。
- ・高齢者だけでなく、若い人もずっと健康なわけではないので、各年代に合わせて、
どのようなことを言ったら運動へのモチベーションが高く保てて、健康を維持できるかに
焦点を当ててアプローチしていくことが予防医療につながる。

■ 伊藤 元重氏「医療と財政」

- ・医療と財政の問題は、日本にとって最も重要なテーマとなっている。
- ・政府の財政資質には、社会保障と非社会保障がある。
先進30か国の中で、日本は非社会保障費の支出は最下位。
日本は驚くべきほど、非社会保障にお金を使っていない。その象徴が教育で、
日本ほど、政府が教育にお金を使っていない国はない。
→これは、我々の税金のかなりの部分は、社会保障に回ってしまっているということ。
今後は子どもの数が減っていくので、教育費は自然と減っていく、
その反面、増えていくのは、医療、年金、介護の社会保障で、ますますこの部分が重要になる。
- ・そのため、高齢化で社会保障費が厳しくなる一方で財政の足元が不安定な状況にある。
- ・さらに、毎年25兆円の財政赤字を出して、その分を国債で埋めている。
- ・そしてこれから2020、2025、2030年高齢化がどんどんすすんでいく中で何もしないと、
自然増加的に医療費や介護費などが増え、日本の財政は手に負えなくなってしまう。
- ・これから重要かつ必要となる取組みは、「見える化（状況を知る、問題の所在を明らかにする）」、
「優良事例の横展開」、「インセンティブ改革」である。
すぐに改革するのは難しいので、できることを徐々にやっていくしかない。
- ・最終的には、消費税を上げたり、可能なところから歳出をカットしていくような取り組みを

★お客様の主なコメント

- ・75歳以上になると、誰もが死ぬまでに10年程度の間、何らかのサポートなしでは
生きていけないという事実は大変驚きました。健康であり続けるための自己努力、
さらにはサポートが必要になった時に支えてもらえる包括ケアの大切さを実感しました。
とても志のある構想で、実現することで本当によりよい日本になっていくと感じます。（30代女性）
- ・超高齢社会を迎えた日本社会において、改めて危機的状況であると認識できた。医学者からの
現状が現状の経済状況と照らし合わせての議論は有意義であった。ネット社会・情報化社会が
晩婚化をおし進め、諸々の状況が悪循環を生んでいるのかと思った。（40代男性）



▲湯山 茂徳氏



▲岩尾 聡士氏



▲中村 格子氏



▲伊藤 元重氏

フォーラムの様子



岩尾 医学者
中村 医学者



伊藤 経済学者
湯山

